

愛媛大学法医学講座で法医解剖及び死体検案された方のご家族の方へ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、当講座で行われた解剖または検案の記録や死因究明を目的に行った検査のデータを使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、記録やデータを利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	骨の形態学的特徴を利用した個人識別方法の検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	研究責任者 : 法医学講座 教授 浅野水辺 個人情報管理者 : 法医学講座 講師 中林ゆき
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2030 年 12 月 31 日
対象となる方	2019 年 1 月から 2021 年 12 月に愛媛大学大学院医学系研究科法医学講座にて法医解剖または死体検案されたご遺体
利用する試料・情報等	(利用する記録情報) 性別、年齢、身長、人種、死因、死亡までの経緯、肉眼所見、 死後 CT 画像検査データ 等 (利用する試料) なし
研究の概要 (目的・方法)	遺体の損傷が激しい場合や一部のみが発見された場合、身元確認のために身長や性別の推定は極めて重要です。従来の推定式は主に骨の長さを用いて構築されてきましたが、外国人データに基づくものは日本人への適用に限界があったり、事例によっては利用可能な骨種が限られるため、さまざまな骨に対応した推定式の整備が求められたりします。さらに、加齢に伴う脊柱や軟部組織の変化により骨長と実測身長の関係に年齢差が生じる可能性も考えられます。本研究では、CT画像から得られる骨の長さや断面積・体積も積極的に活用し、従来にない高精度な推定式の構築を目指します。 2019年1月から2021年12月までに当講座で法医解剖または死体検案を行った症例のうち、身長が測定可能であり、かつ、死後CTが撮像された方を対象に、四肢や体幹の骨について

	骨全長・部分長、断面積および体積を測定します。これらのデータを分析することにより、身長推定・性別判定等が可能であるか判定し、可能ならばその推定式を導き出します。
個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など亡くなった方を直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学大学院医学系研究科法医学講座 中林ゆき 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089－960－5291